と思われないもの。

2　番組の事実のみを、断片的に説明しているだけのもの。

3　番組の内容に思考が加味され、番組以外の事柄にまで、問題を展開して書いているもの。

4　問題点の解決方法まで述べ自分の経験と結びつけて、実践への意欲が認められるもの。

五回の放送を聴取させ、生徒の記入した視聴カードを観点別に集計した結果、K・J法図解を併用して視聴した実験群の生徒の方が、内容の記述が正確であり、発展的にとらえているのが多かった。また放送の視聴回中を重ねるごとに、統制群、実験群ともに内容理解の深まりがでてきており、継続視聴の効果が実証された。（表3）

三　結果と考察

1　事後テストの検定（表4）により実験群と統制群の間に有意差が認められたのは、仮説が有効であったと考えられる。

2　有意差のでた小問の出題内容は、放送内容に関係がある倫理的つながりを求める問題であり、K・J法図解の併用視聴に効果があったと推定できる。

K・J法図解の併用視聴を、生徒はどう受けとめたかについては、次の生徒の感想文からみて高く評価していることがわかった。

◎　図解をみながら聞くと、今までなんとなく頭の中をかすめていった言葉が、文字として目の前に残り、また論理的つながりが楽にでき内容がつかみやすい。

◎　ただ放送を聞いただけでは、いくらメモをしていても何が中心であるのか、大切な部分を聞き逃したりするが、図解があれば要点の把握が容易で、しかも理解が深められる。

四　K・J法学習の実践

K・J法学習の効果は、生徒の思考力、創造力の深化と、情報のデータを素材として「統合する能力」が育てられる点にある。教師が教えるのではなく、生徒自身で情報を集めそれを基にして各グループごとに討議し、結論をみつけていくことにあり、教師主導型の講義式授業とは本質的に異なる点がある。授業実践では、放送教材「核家族」をもとにテーマとして「最近老人の自殺、えい児殺し、子捨てが急増しているが、その原因は何か」を設定しK・J法学習を展開した。進学校である本校では、講義式中心の授業が普通であり、またそれが当然のように思っている生徒の実態の中で、まったく経験のないK・J法学習を、どのように思っているか不安であったが、K・J法授業後のアンケート調査の結果をみると、多少の問題点はあるにしても、その効果の大きいことが認められた。

（生徒の感想）

●　ある問題を深く掘り下げていくと、関係のないような事項でも、必ずどこかでつながっている。そんな社会のしくみ、因果関係をK・J法で学びとった。

●　普通の授業では、あまり考えるということはないが、K・J法学習によって、考える力、まとめる力がついたように思う。今までの授業形式を破った楽しい授業であった。

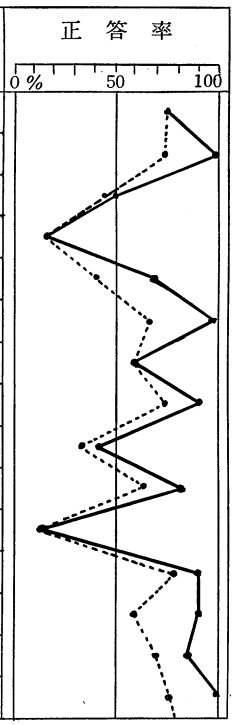
●　K・J法は問題を順序だて、結論を導くので理解しやすい。また教科

表3　視聴カードの分析

観点	1回		2回		3回		4回		5回	
	統制	実験	統制	実験	統制	実験	統制	実験	統制	実験
1	4名	2名	4	2	3	2	2	1	1	1
2	19	15	17	10	15	6	13	6	12	7
3	7	9	9	12	10	14	13	15	12	13
4	5	9	5	11	7	13	7	13	10	14

表4　事後テストの正答率の検定

大問	小問	事後テスト正答率 実験群	事後テスト正答率 統制群	乙の値	有意差
(1)	(1)	0.77	0.77	0.00	×
	(2)	1.00	0.74	3.25	○
	(3)	0.49	0.43	0.50	×
	(4)	0.20	0.20	0.00	×
	(5)	0.71	0.43	2.37	○
(2)	(イ)	1.00	0.69	3.52	○
	(ロ)	0.57	0.57	0.00	×
	(ハ)	0.91	0.74	1.89	×
	(ニ)	0.43	0.37	0.51	×
	(ホ)	0.83	0.63	1.89	×
	(ヘ)	0.14	0.14	0.00	×
	(ト)	0.94	0.86	1.11	×
	(チ)	0.94	0.60	3.43	○
	(リ)	0.89	0.69	2.06	○
	(ヌ)	1.00	0.74	3.25	○



——— 実験群　-------- 統制群